

# 大垣市守屋多々志美術館 企画展「Cool! 守屋Blue」

「Cool! 守屋Blue」というテーマで、印象的で涼しげな青色絵具を基調にした作品や、幽霊や妖怪など怖い物語をモチーフにした作品を集めた企画展を開催します。

期間中は小中学生を対象に、子どもワークショップ・鑑賞教室を開催しています。



《社丹燈記》※美しい若い女の幽霊

- 場所：守屋多々志美術館(大垣市郭町二丁目12番地)
- 期間：令和元年7月20日(土)→9月23日(月・祝) 9時～17時
- 休館日：毎週火曜日、8月14日(水)、9月18日(水)
- 入館料：300円 \*高校生以下無料
- 子どもワークショップ・親子鑑賞会

7月20日(土)	鑑賞教室・マーブルングを楽しもう
8月2日(金)～5日(月)	鑑賞教室・公募ポスターや絵画の制作

時間は9時30分～11時30分、なお8月2日(金)・5日(月)は13時～15時も開催(申込必要81-0801)

# 図書館 課題図書を読んでみよう!

【小学校低学年】	【小学校高学年】
<p>タイトル：もぐらはすごい 著者：アヤ井アキコ 出版社：アリス館</p> <p>●まっくらな土の中に住んでいるもぐら。どうやって土を掘るんだろう?謎だらけの暮らしを紹介します。</p>	<p>タイトル：かべのむこうになにがある? 著者：ブリッタテックントラップ/作 風木 一人/訳 出版社：BL出版</p> <p>●大きな赤い壁がありました。知りたがりの小さなねずみは、この壁の向こうに何かあるのが気になって、聞いてまわりますが…。</p>
【小学校中学年】	【中学生】
<p>タイトル：子ぶたのトリュフ 著者：ヘレン・ピーターズ/文 エリース・ノードン/絵 もりうち すみこ/訳 出版社：さへら書房</p> <p>●ジャズミンに命を救われた赤ちゃんぶたのトリュフは、元気な子ぶたに育ちました。少女と子ぶたの心あたたまる物語。</p>	<p>タイトル：星の旅人 伊能忠敬と伝説の怪魚 著者：小前亮 出版社：小峰書店</p> <p>●行方知れずの父を探すため、少年は伊能隊と共に旅をする…。伊能忠敬の足跡を、少年の視点で描く歴史読み物。</p>

大垣市教育委員会 〒503-0888 大垣市丸の内2丁目55  
TEL(0584)47-8022(直通) FAX(0584)82-6385  
Email: kyouikusyomuka@city.ogaki.lg.jp

みんなで築こう人権の世紀  
～考えよう 相手の気持ち  
未来へつなげよう 違いを認めよう～

ふれあい 学びあい 深めあう 文教のまち大垣

大垣市教育委員会だより

# はぐくみ vol.12

発刊  
令和元年  
7月

## 子どもたちの体力向上

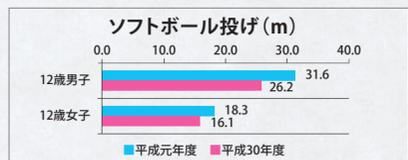
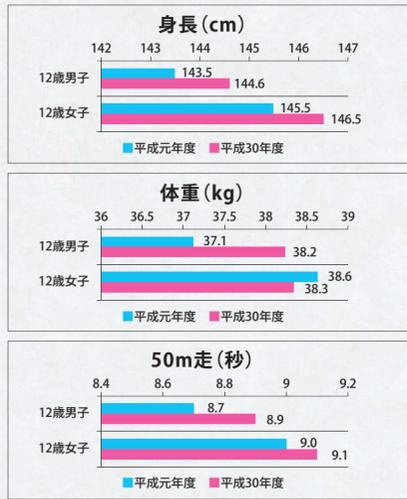
文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」によると、現在の子どもの体力・運動能力の結果をその親の世代である30年前と比較すると、ほとんどのテスト項目において、子どもの世代が親の世代を下まわっています。一方、身長、体重など子どもの体格についても同様に比較すると、逆に親の世代を上回っています。

このように、体格が向上しているにもかかわらず、体力・運動能力が低下していることは、身体能力の低下が深刻な状況であることを示しているといえます。

また、最近の子どもは、靴のひもを結べない、スキップができないなど、自分の身体を操作する能力の低下も指摘されています。

子どもの体力の低下は、将来的な体力低下につながり、生活習慣病やストレスに対する抵抗力の低下などを引き起こすことが懸念されています。

### (1)お父さんやお母さんの頃と比べて



※平成元年度と平成30年度の大垣市内小学校6年生の平均値を比較

### (2)保護者の皆様へのお願い

#### ■体づくりの三原則

- ①栄養**  
栄養の「とりすぎ」や「不足」などのかたよった食事が原因になって、太りすぎややせすぎなどが起こります。また、このような状態が長く続くと、生活習慣病を引き起こすことがあります。  
1日3回の食事を規則正しく、楽しく食べること、塩分をひかえめにしうす味の食事をこころがけること、おやつなどは種類と量を考えてとることが必要です。
- ②運動**  
人間にとって、体を動かすということは健康のうえでとても重要なことです。体を動かすことにより、筋肉が強くなり、骨折しにくい骨になり、体力もつきます。  
最近では、体を動かして遊んだりする時間が少なくなっています。学校の体育の時間以外にも軽く汗をかく程度の運動をする習慣をつけることが大切です。
- ③休養と睡眠**  
休養には、体を使わないで休ませる休養と、軽く体を動かしたり本を読んだりして、気分を変える休養があります。  
睡眠は、心身の疲れをとるのに必要なだけでなく、病気に対する抵抗する力や治る力を高めます。また、「寝る子は育つ」と言われているように、子どもは眠っている間に成長します。  
適度な休養と睡眠をきちんととる生活習慣づくりが重要です。

## 特集 平成から令和へ～大垣の学校教育を振り返る～

年代	平成元～5年	平成6～10年	平成11～15年	平成16～20年	平成21～25年	平成26～30年
大垣の学校教育	・日本語学級を設置 (H4)	・ほほえみ教室開設、ほほえみ相談員配置 (H9)	・小中一貫教育に係る兼務教員発令 (H13:県内初)	・全小学校で英語科「特区」導入 (H18)	・南部学校給食センター改築 (H22)	・ふるさと大垣科、土曜授業開始 (H27)
国・県の学校教育	・小1・2年で生活科開始 (H4)	・スクールカウンセラー配置開始 (H7)	・完全学校週5日制開始 (H14)	・35人学級導入 (H17:小1、H18:小2)	・中学校で武道必修化 (H24)	・小学校で「特別の教科 道徳」が開始 (H30)
大垣市	・墨俣一夜城(歴史資料館)オープン (H3) ・スイトピアセンターオープン (H4)	・こどもサイエンスプラザオープン (H7) ・武道館、情報工房オープン (H10)	・守屋多々志美術館オープン (H13) ・子育て交流プラザオープン (H14)	・おおがき芭蕉生誕360年祭開催 (H16) ・上石津町、墨俣町と合併 (H18)	・子育て総合支援センターオープン (H22) ・奥の細道むすびの地記念館オープン (H24)	・大垣祭の執行事がユネスコ無形文化遺産に登録 (H28) ・市制100周年記念事業 (H30)

保護者の皆さんが小中学生だった頃と現在を比べてみました。家族で学校生活の思い出を話し合ってみてはいかがでしょうか?

授業の様子が大きく変化し「考えを広める」「考えを深める」ツールとして、タブレットや大型モニターが導入されています。

平成22年度から、食器が2点から4点に増え、材質も陶器になりました。

来年度より小学校英語教育が全面実施となりますが、大垣市は、平成18年度から小学3年生以上を対象に、週1時間の「教科」英語の授業を実施してきました。

## 「平成から令和へ」

元号が平成から令和へと変わりました。そして、新学習指導要領に基づく教育が小学校では来年度から、中学校では令和3年度から完全実施となり、新しい時代に向けた教育が始まろうとしています。

平成の教育を振り返ってみると様々な変化がありました。先生の文書作成はワープロからパソコンに、また、子どもたちが授業で資料を見るときは、OHP(オーバーヘッド・プロジェクター)から、タブレットや大型モニターになっています。

一方、学習指導要領についても大きく変化してきました。平成元年の改訂では、生活科が導入されるなど新しい学力観が打ち出されました。平成10年度の改訂では、総合的な学習の時間が導入されるなど、ゆとりの中で生きる力を育むことを目指した改善が行われました。しかし、学力低下などの指摘もあり、平成20年の改訂では、生きる力の育成を大切にしながら授業時数の増加、小学校の英語活動の必修化などが行われてきました。平成時代の教育は、教科学習などの系統立てて配置された学習内容を順番に学習していくような(系統主義的)教育だけでなく、総合的な学習などの経験から自己で考える力を身につけさせる(経験主義的)な教育を導入して、学ぶ立場に立った教育へと改善が図られたのだと考えています。

こうした教育の大きな動きは、令和になっても変わらないと思います。子どもたちが自分でより良い社会と豊かな人生を創っていく生きる力は、これからも大切になります。その生きる力を育てるには、子どもが主体的に学ぶ経験主義的な教育が重要な役割を果たします。学校の授業や行事、地域の子ども会活動などを通して、主体的な学びを大切に、生きる力を育てていきたいと思っています。

他方で、不登校やいじめは平成から令和になっても大きな問題であり、このほかにも教員の働き方改革をはじめとする教育課題が山積しています。先生方や保護者の皆様、地域の皆様と一緒に、一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいと思っています。ご支援をよろしくお願い申し上げます。



大垣市教育長 山本 譲